

和歌山病院での実習を終えて



永富 旺

呼吸器内科の臨床実習の一環として、二日間、和歌山病院で実習させていただきました。今回の実習では大学内の実習ではなかなか学ぶことの出来ない知識を実際に体験しながら得ることの出来る貴重な機会でした。

駿田副院長から結核の感染様式や診断・治療についての講義があり、実際に N95 マスクをつけて結核病床を見学しました。結核に対する正しい知識をもって診療することが治療の第一歩であり、今回はそのことを含めて多くのことを教えていただきました。個人的には結核の好発部位がなぜその場所なのかなど考えることもなく暗記しており、知識の丸暗記が多い自分には特に理論的に物事を考えていく必要性を再認識する非常に有意義な時間となりました。南方先生には今まで避け続けてきた胸部 X 線画像読影について、正常構造を頭にいれた上で論理的に読影していく方法をご教授頂き、本当に為になりましたし、苦手意識が薄れ、今後積極的に読影していきたいと意識が変わりました。先生もおっしゃられたように、和歌山病院での講義をきっかけとして、今後の大学の实習で学びをさらに高めていきたいです。また、南方病院長先生が、「良い」医者というフレーズを繰り返されており、医師として働く日もそう遠くない今、漫然と日々の実習をこなしてはいけなと改めて身の引き締まる思いが致しました。大学では、主体的に取り組まずともその場をやり過ごせることが多々ありますし、とりあえず知識を詰め込んでいけば試験にも合格できました。しかし、それではいけないということ、論理的に考えることの大切さ、論理的であるからこそ確信を持ち主体的に症例に取り組む姿勢も生まれるのだということを改めて教えて頂きました。短い期間ではありましたが、有意義な数々のお話や考え方のご教授を頂き、実りある実習でした。

ご多忙の中ご指導いただきました南方病院長先生、駿田副院長先生はじめ、和歌山病院スタッフの皆様、お世話になりました。ありがとうございました。また機会があれば実習や研修等で再度勉強させていただきたいと思ひます。その際にはよろしくお願ひいたします。